

令和元年度決算に係る

定期監査
資料
決算審査

令和2年7月

教育委員会事務局 社会教育課

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
	(3) 決算審査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1
3	職員の定員、現員調べ	1
4	役付職員の調べ	1
5	主な事業に関する調べ	2
6	決算資料（総括表）	1 1
7	事業別実施状況調べ	1 3
8	予備費の充用調べ	2 0
9	繰越関係調べ	2 0
	(1) 継続費遞次繰越調べ	
	(2) 繰越明許費調べ	
	(3) 事故繰越調べ	
1 0	収入証紙取扱額調べ	2 0
1 1	現金の取扱状況	2 0
1 2	財産に関する調べ	2 1
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の保有状況	
	(3) 基金	
	(4) 債権	
1 3	財産の貸付及び使用許可調べ	2 3
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品（1品の取得価格が100万円以上のもの及び寄附受納時の評価額が100万円以上のもの）	
1 4	借受不動産明細調べ	2 5
1 5	職員駐車場の管理状況調べ	2 5
	(1) 管理状況	
	(2) 減免の考え方	
	(3) 使用料の見直し	
1 6	寄附物件の受納状況調べ	2 5
1 7	備品の処分状況調べ	2 6
1 8	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	2 6
	(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	
	(2) 物品の照合	
1 9	貸付金等状況調べ	2 6
	(1) 総括表	
	(2) 償還状況	
○	意見、要望等	2 6

注 個別調査事項（共通様式以外の個別資料様式に示されている事項）がある場合は、「○意見、要望等」の前に、その個別調査事項を記載すること。

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項

該当なし

(2) 監査意見

該当なし

(3) 決算審査意見

該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況

該当なし

3 職員の定員、現員調べ

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		合計		備考
	241 現在	31.41 現在	241 現在	31.41 現在	241 現在	31.41 現在	241 現在	31.41 現在	
定員	17	14					17	14	社会教育課(11)、船上山(3)、大山(3)
現員	(5) 23	(5) 19	()	()	()	()	(5) 23	(5) 19	・派遣研修専門指導員受入 (船上山、大山 各2.5) (R2の派遣元: 米子市1、倉吉市2、八頭町0.5、南郷町1、日南町0.5)
過不足(△)									
臨時職員	0	0					0	0	
非常勤職員	2	2					2	2	・広報専門員(1) ・体験活動指導員(船上山、大山各0.5)

4 役付職員の調べ

(令和2年7月1現在)

職名	氏名	在職期間		備考
課長	島田 真紀子	2年	3月	
課長補佐	白岩 準市		3	
課長補佐	檜垣 英司		3	
船上山少年自然の家所長	桑本 康昭	1	3	
大山青年の家所長	牧 明浩	1	3	

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
インターネットとの適切な接し方教育啓発推進事業	4,657			4,657
鳥取元気プロジェクト				
元気づくり総合戦略				
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
<p>インターネット環境の急速な発達により、スマートフォン・ゲーム機・携帯音楽プレーヤー等の電子メディア機器はますます子どもたちの生活の中に浸透し、利用の低年齢化も進んでいる。保護者や子どもたちに対し、電子メディア機器とのよりよい接し方(*)について教育啓発を行う。</p> <p>*よりよい接し方…トラブルや犯罪に巻き込まれたり、生活習慣が乱れたりすることのないよう、インターネットの特性を理解し、モラルやマナー等を考えて電子メディア機器を使用する。</p>				
(イ) 事業の実施状況				
鳥取県子どものインターネット利用教育啓発推進協議会事業 (委託先：鳥取県子どものインターネット利用教育啓発推進協議会)		<p>① 鳥取県子どものインターネット利用教育啓発推進協議会の開催 電子メディア機器との関わり方やインターネット・スマートフォン利用の教育啓発推進の方向性や施策について検討した。(R1.6.11、R1.10.3開催)</p> <p>② 「とっとり子どもサミット～電子メディアとのより良い付き合い方編～」の開催 県内の小・中・高校生及び保護者が、子どもと大人に分かれ、インターネットとの適切な付き合い方について話し合うワークショップを実施した。</p> <p>・開催日、参加者 (東部) 令和元年6月22日(土) 国府町コミュニティーセンター (小学生12名、中学生1名、保護者14名、計27名) (中部) 令和元年6月29日(土) 倉吉体育文化会館 (小学生3名、中学生1名、高校生1名、保護者6名、計11名) (西部) 令和元6月9日(日) 米子コンベンションセンター (小学生4名、中学生2名、高校生1名、保護者28名、計35名)</p> <p>③ 「とっとり電子メディアとの付き合い方フォーラム」の開催 ②の「とっとり子どもサミット」で子どもたちが考え、取り組んだ電子メディア機器とのより良い付き合い方(ゲーム機、スマートフォンを利用する際のルール等)について、参加した大人も一緒に話し合うことで、県内全体に子どもたち主体の取組の啓発を図った。 また、講演会では、参加者同士が対話する形式も交えながら、親子でルール作りをする際の方法を学ぶ機会となった。</p> <p>・開催日：令和元年12月1日(日) ・会場：国府町コミュニティーセンター ・参加者：259名 ・講演会「ネット社会に生きる子どもの実態と親子でできること」 講師：竹内義博氏 (一般社団法人ソーシャルメディア研究会チーフ技術指導員)</p>		

	<p>⑤ 「電子メディアとの付き合い方学習ノート」の作成・配付 学習ノート（シート）を作成し、子どもたちが主体的に電子メディア機器の使い方を振り返ったり、家庭で話し合ってルールを決めたりする契機とするとともに、学校における情報モラル教育の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付先：県内小学生～高校生 ・作成部数：72,000部 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>内訳</td> <td>学習ノートA（小1～小3対象）</td> <td>18,000部</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学習ノートB（小4～小6対象）</td> <td>18,000部</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学習シート（中・高校生対象）</td> <td>36,000部</td> </tr> </table> <p>⑥ 大規模商業施設での啓発活動の実施 電子メディア機器と離れた他の遊びについての楽しさを伝えるとともに、電子メディアとのより良い付き合い方に関するパネル展示を行い、メディア機器利用のルールについて啓発した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：令和元年9月14日（土） ・会場：イオン鳥取北店 ・内容：ネット・読書クイズラリー、読み聞かせ、本の貸し出し、積み木 ・参加者：延べ568名 	内訳	学習ノートA（小1～小3対象）	18,000部		学習ノートB（小4～小6対象）	18,000部		学習シート（中・高校生対象）	36,000部
内訳	学習ノートA（小1～小3対象）	18,000部								
	学習ノートB（小4～小6対象）	18,000部								
	学習シート（中・高校生対象）	36,000部								
<p>ケータイ・インターネット教育啓発講師派遣事業 （委託先：NPO法人こども未来ネットワーク）</p>	<p>① 鳥取県ケータイ・インターネット教育推進員派遣 PTAや地域等で開催される学習会に講師を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣実績：116件 （保育園・幼稚園11件、小学校69件、中学校13件、高等学校3件、地域20件） <p>② 鳥取県ケータイ・インターネット教育推進員研修 推進員のスキルアップを図る研修会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和元年8月17日（土）、8月18日（日）・26日（月） ※推進員：29人（令和元年度末） <p>③ 乳幼児保護者向けチラシの作成・配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成部数：26,000部 									
<p>鳥取県インターネット問題予防対策事業</p>	<p>ネット依存や人間関係のトラブルといったインターネットの過剰利用による問題の発生を学校全体で予防するため、情報モラル教育についての専門的知識を有する地域人材を県内の学校に派遣し、児童・生徒を対象とした啓発授業と併せて教職員研修を行い、学校における情報モラル教育と教員の指導力の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣実績：24件 									
<p>教職員情報モラル教育研修会</p>	<p>県警本部と連携し、教職員の情報モラルに関する授業内容の充実を目的とした研修会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：令和2年1月24日（金） ・参加者：86名（内訳：教職員等53名、警察職員33名） 									
<p>令和元年度インターネットの利用に関するアンケート調査の実施</p>	<p>スマートフォンやゲーム機などの電子メディア機器の普及やコミュニティサイトの急速な利用拡大等により、基本的な生活習慣の乱れや子どもたちの犯罪被害につながる行為が憂慮されていることから、インターネットに係る子どもたちの実態調査を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：県内小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生とその保護者及び未就学児（年長）の保護者 3,292名 （10％程度を抽出して実施） ・実施時期：令和元年9月2日～9月20日 ・結果の公表：令和2年3月 									

《アンケート結果概要》

○インターネット利用率

利用率は全国平均より低いが、小・中でH27より増加

小6：88.1% 中2：89.3% 高2：95.4%

○自分専用のスマートフォン所持状況

高2で全国平均程度、中2は全国平均（57.5%）以下

小6：24.0% 中2：38.3% 高2：96.4%

○未就学児（年長児）インターネット利用

全国平均（5歳：67.8%）より低いものの、55.2%がインターネットを利用。

○「家庭でのルール」の有無

ルールのある割合は全国平均を上回る。子どもと保護者との認識の差は学校種が上がるにつれて大きくなる傾向が続いているが、H27調査より改善している。

（子どもと保護者との認識の差 小6：11.4ポイント、中2：20.3ポイント
高校生：41.2ポイント）

○病的な使用（依存傾向）の疑われる割合は、全国平均（中：12.4%、高：16.0%）よりかなり低いが、小6で4.3%、中2で5.9%、高2で10.5%存在する。

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・とっとり子どもサミットにおいて、子どもだけでなく保護者も参加できる内容構成にすることで、インターネット利用に関するルール作りについて親子で話し合う契機とすることができた。
- ・電子メディアとの付き合い方学習ノート（シート）では、動画サイトへの自画撮りの投稿、オンラインゲームの長時間利用といった、児童生徒がトラブルに陥りやすい具体例を取り上げることで、学校における情報モラル教育の更なる充実を図るとともに、家庭での話合いの契機とした。
- ・鳥取県インターネット問題予防対策事業を新たに実施し、各学校の実態に応じた授業及び教職員研修に取り組んだ。
- ・教職員への情報モラル研修において、県警本部と連携し、県内の児童・生徒の実態を教員だけでなく警察職員にも伝えるとともに、教員がすぐに実践できる教材の提供を行った。
- ・インターネットの利用に関するアンケートを4年ぶりに実施して県内児童生徒の実態把握を行った。今回調査では新たに、自分専用の機器の所持状況や依存傾向に関する調査項目を追加した。

ウ 成果及び効果

- ・とっとり子どもサミットでは、小・中・高校生が他校の児童生徒や年代の違う大学生とともに、電子メディア機器の使用における様々な考え方や取組について話し合いながらルール作りをしていくことで、電子メディア機器の使い方を改めていこうとする態度が見られた。また、話し合った内容をとっとり電子メディアとの付き合い方フォーラムにおいて発信し、子どもたち主体の取組を県内全体に広げていく一助となった。
保護者からは「研修に参加しない保護者にこそ考えてもらいたい内容である」「メディア機器利用のルール作りをPTA研修会等で取り組んでいきたい」といった意見が出るなど、今後の行動に向けた意識の高まりがみられた。グループの話合いをサポートする大学生ボランティアも含めると小・中・高・大・保護者と幅広い年代の意見を出し合える機会となった。
- ・大型商業施設での啓発活動において、ネット・読書クイズラリーや積み木など、家族で協力して取り組める内容を盛り込んだことで、多くの家庭への啓発につながった。
- ・ケータイ・インターネット教育推進員については、全国的に動画投稿サイトの利用やオンラインゲームの利用が広がっており、低年齢の子どもがそれらに接する機会が増えるという危惧から保育園・幼稚園や小学校からの派遣依頼が多くあり、保護者の意識醸成につながった。
- ・インターネット問題予防対策事業では、対象の学年・学級の実態に応じて具体例を提示する授業により、児童生徒の適切なインターネット利用に向けた行動に対する意識を高めることができたとともに、教職員研修においては家庭への啓発方法や継続した指導の必要性について改めて考えてもらうことができた。
- ・インターネットの利用に関するアンケート結果から、県内児童生徒とその保護者及び未就学児の実態が明らかとなり、今後の有効な取組について検討することができた。

エ 課題

- ・子どもサミットやフォーラムの実施により、子どもたちが主体となって電子メディアとのよりよい付き合い方について考え、それを広める取組を行ったが、一過性のものとせず、今後も引き続き電子メディアとのよりよい付き合い方についてより広く啓発する方策を検討する必要がある。
- ・インターネットの利用に関するアンケート結果から、保護者と子どもたちの認識の差があることや、未就学児のインターネット利用が増加していること、インターネットの病的な利用が疑われる児童生徒が全国平均より少ないものの一定数いることなども判明したことから、PTA、警察、NPO法人、報道機関、福祉部局等、引き続き多くの関係機関と連携しながら、急速に進化するインターネット環境に対応した有効な教育啓発を検討し、継続した活動を展開していくことが必要である。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
本の大好きな子どもを育てるプロジェクト	1,011			1,011
鳥取元気プロジェクト				
元気づくり総合戦略				
(概要)				
ア 目的及び事業の実施状況				
(ア) 目的				
子どもたちがより効果的に図書との関わりを持つための取組として、子ども読書アドバイザーの派遣や児童・生徒の読書推進の啓発など、子どもの読書活動を推進するための事業を展開する。				
(イ) 事業の実施状況				
区分	内容			
子ども読書アドバイザー派遣事業	子ども読書に関する知識や豊富な経験を持つ「子ども読書アドバイザー」を保護者会や読み聞かせボランティアの研修会に講師として派遣した。 ・派遣件数：23件（読み聞かせボランティア、保護者、子育て支援者等への研修17件、主に生徒への研修6件） ・アドバイザー：41人（令和元年度末）			
子ども読書アドバイザー研修会	子ども読書アドバイザーとして活動するにあたっての基本的なスキルアップを図るとともに、アドバイザー間の意見交換を行った。 ・開催日：令和元年7月6日（土） ・会場：上灘公民館 ・参加者：42名 ・内容：講演①「絵本で広がる 豊かな世界」 講師：大長 咲子氏（絵本で子育てセンター） 講演②「心と言葉を育む読み聞かせ」 ワークショップ「考える・伝える 絵本への思い」 講師：中村 史氏（絵本で子育てセンター）			
鳥取県子どもの読書活動推進事業2020～中学生ポップコンテスト～	読書離れが顕著になる中学生に本を読むことの意義を伝える体験を提供するため、中学生ポップコンテスト（推薦図書枠、自由図書枠）を実施した。 ・募集期間：令和元年8月1日（木）～9月27日（金） ・応募作品総数：1,024点 ・優秀賞：30点（うち、5点は鳥取県書店商業組合が選定する特別賞を受賞） 優秀賞受賞作品は展示及び書店店頭における販売促進ポップとして活用した。			
ビブリオバトル実施支援事業	県内各学校にビブリオバトルに関する専門知識を有する支援者（大学生）を派遣し、ビブリオバトル実施支援を通して子どもの読書活動の推進を図った。 ・派遣件数 9校（小学校3、中学校4、中高一貫校1、高等学校1） ※ビブリオバトル 書評合戦。4～5人が本を持ち寄り、その本の面白さについて5分程度プレゼンテーションし、それを聞いた参加者が一番読みたいと思った本を投票で決定する書評会。2007年ごろ京都大学で発祥し、近年広がりを見せている。			

読書啓発ポスター、リーフレットの作成	<p>幼いころから発達段階に応じた読書習慣の形成を支援していくことが重要であることから、読書（読み聞かせ）の大切さについて啓発するポスター、リーフレットを作成、配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成時期 令和2年1月 ・作成部数 リーフレット60,000部 ポスター300部 ・配布先 乳幼児、園児の保護者（県内幼稚園、保育園、認定こども園、市町村保健センターから配布）、産婦人科、小児科 <p>〔「地域ぐるみで『体験の風をおこそう』運動推進事業」（国立青少年教育振興機構）を一部活用して実施〕</p>
読書啓発イベントの実施	<p>子どもの心豊かな成長を促す読書活動の推進を図ることを目的として、読書の大切さを啓発するイベントを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和元年9月29日（日） ・会場 倉吉未来中心内アトリウム ・内容 本のクイズラリー、絵本の読み聞かせ、出前図書館、読書トリピーの塗り絵・缶バッジづくり ・参加人数 のべ476名 <p>〔「地域ぐるみで『体験の風をおこそう』運動推進事業」（国立青少年教育振興機構）を活用して実施〕</p>
インターネットと読書との関係についての調査	<p>平成31年3月に策定した「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン（第4次計画）」において、インターネット利用と読書活動に関する実態を調査するとしたことから、「令和元年度インターネットの利用に関するアンケート調査」において読書に関する調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：県内小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生 42校1,592名 未就学児（年長児）の保護者 16園395名 ・実施時期：令和元年9月2日～9月20日 <p>《調査結果概要》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いずれの学校種においても、紙の本のみで読書した者が最も多く、次いで紙・電子書籍の両方となっており、電子書籍のみで読書をした割合は低い。 ・読書をする層は、読書をしない層と比較して、インターネットを勉強に利用している割合が高く、ニュース、情報検索など、情報を得る手段として利用している傾向も高い。 ・読書をしない層については、動画・ゲーム等にインターネットを利用する割合が高い。

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・子ども読書アドバイザー派遣事業について、保育園等にチラシを配布して活用を促進した。
- ・ポップコンテストは、共催機関である鳥取県書店商業組合の協力により新たに「鳥取県書店商業組合特別賞」を設定して企画の充実を図った。
- ・「地域ぐるみで『体験の風をおこそう』運動推進事業」を活用して、新たに読書啓発イベントを実施した。あわせて読書（読み聞かせ）の大切さについて啓発するリーフレットを7年ぶりに作成、配布した。
- ・「令和元年度インターネットの利用に関するアンケート」において、読書とインターネットとの関係を調査した。

ウ 成果及び効果

- ・子ども読書アドバイザー派遣事業について、広報により活用件数が増加した。（H30：17件→R1：23件）
- ・中学生ポップコンテストは多数の応募があり、夏休み期間の取組として定着してきているものと考えられる。また、書店との連携強化により特別賞の設定及び同賞受賞作品の書店店頭における販売促進ポップとしての活用が実現し、中学生の本事業への応募意欲を喚起した。（H30：870件→R1：1,024件）

- ・ビブリオバトル実施支援先が増加し、小学校・中学校・中高一貫校・高等学校と幅広い校種へと広がりが見られた。児童生徒がビブリオバトルのデモンストレーションを見学したあと、各学級または、学年の代表者が実際にビブリオバトルを行う学校が増え、学校現場において読書の幅を広げていくための手法のひとつとして認識されつつある。
- ・読書（読み聞かせ）の大切さを啓発するリーフレットを保育園等を通じて乳幼児期保護者に配布するとともに、ポスターを産婦人科等に配布して、新たに妊娠期保護者に対する啓発を図ることができた。
- ・読書啓発イベントを中部地区で初めて実施した。会場隣地で開催する集客イベントにあわせて実施したことで、多くの親子に参加してもらうことができた。
- ・インターネット利用と読書との関連を調査して実態把握を行い、今後の読書活動の推進に関する検討資料とすることができた。

エ 課 題

- ・鳥取県子どもの読書活動推進ビジョンの改定にあたりH29に実施した「子どもの読書活動に関するアンケート」からは、学年が上がるにつれて不読率が上昇し、全国平均ほどではないものの高校生の不読率が高い傾向がある。
- ・中学生、高校生の読書離れの対策として、幼いころから発達段階に応じた読書習慣の形成を継続的に支援していくことが重要であり、特に読書（読み聞かせ）に興味のない層への働きかけのほか、読み聞かせの大切さについて妊娠期も含めた乳幼児保護者への啓発も重要である。
- ・インターネット、電子メディア機器・電子書籍の普及とその利用の低年齢化に伴い、電子書籍も含めた読書活動の推進に関する方向性の検討が必要である。

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	その他	一般財源
中学校トークプログラム (「ふるさと・キャリア教育」推進事業)	(1,074)			(1,074)
鳥取元気プロジェクト				
元気づくり総合戦略				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

中学生、大学生、地域の大人の三者が少人数のグループになって人生観や職業選択等について相互に語り合うワークショップを実施し、中学生が地域の人を知る機会を提供するとともに、ふるさとへの愛着と貢献意識の形成を図る。

(イ) 事業の実施状況

区分	内容												
中学校トークプログラム	<p>中学生・地域の大人・大学生で構成するグループ（7～8名程度）において、司会が提示するトークテーマについて自由に話し合うトークプログラムを実施した。プログラムの前後には中学生に対して自己肯定感や地域への愛着などに関する意識を問うアンケートを実施し、意識の変化をみた。</p> <p>・実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日程</th> <th>実施校・学年</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9月17日(火) 14:00～15:50</td> <td>米子市立美保中学校 2年生</td> <td>106名(中学生53、地域の大人24、大学生29)</td> </tr> <tr> <td>10月21日(月) 13:40～16:00</td> <td>琴浦町立赤碕中学校 2年生</td> <td>93名(中学生46、地域の大人32、大学生15)</td> </tr> <tr> <td>11月12日(火) 13:35～15:45</td> <td>鳥取市立千代南中学校 2年生</td> <td>65名(中学生34、地域の大人23、大学生8)</td> </tr> </tbody> </table>	実施日程	実施校・学年	参加人数	9月17日(火) 14:00～15:50	米子市立美保中学校 2年生	106名(中学生53、地域の大人24、大学生29)	10月21日(月) 13:40～16:00	琴浦町立赤碕中学校 2年生	93名(中学生46、地域の大人32、大学生15)	11月12日(火) 13:35～15:45	鳥取市立千代南中学校 2年生	65名(中学生34、地域の大人23、大学生8)
実施日程	実施校・学年	参加人数											
9月17日(火) 14:00～15:50	米子市立美保中学校 2年生	106名(中学生53、地域の大人24、大学生29)											
10月21日(月) 13:40～16:00	琴浦町立赤碕中学校 2年生	93名(中学生46、地域の大人32、大学生15)											
11月12日(火) 13:35～15:45	鳥取市立千代南中学校 2年生	65名(中学生34、地域の大人23、大学生8)											

イ 令和元年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

ウ 成果及び効果

- 生徒に対するアンケートでは、すべての項目においてプログラム実施後の肯定的回答が実施前を上回り、これまで鳥取県の生徒の課題とされてきた自己肯定感、将来の夢や目標、地域に対する愛着・貢献意識の向上に効果が見られた。

(生徒に対するアンケート結果〔3校分〕 一部抜粋)

「私には良いところがあると思う」 事前54.1% → 事後75.4% (21.3ポイント増)

「大人になるのが楽しみだ。または、働くことが楽しみだ」

事前57.4% → 事後79.9% (22.5ポイント増)

「地域で起こっている問題や出来事に関心がある」 事前55.2% → 事後76.8% (21.6ポイント増)

「地域をよりよくするために何をすべきか考えたいと思う」

事前64.9% → 事後79.9% (15.0ポイント増)

- 地域の方、大学生についてはアンケートに回答した全員がプログラムを「良かった」と評価し、「また参加したい」とした方がほとんどであった。(地域の大人94%、大学生98%)。
- 地域の方にとって普段接する機会の少ない中学生と話すことで学校や生徒に対する関心を高める機会となるとともに、大学生も含め一体感と相互の学びにつながった。

工 課 題

- ・参加する大学生について、報酬を支給しないボランティアであることから、所要人数の確保が課題である。大学生にとって本事業へ参加するメリット（地域課題解決への参画、ファシリテーション・コミュニケーション能力の向上など）を提示しながら、大学や、大学生とつながりのあるNPO法人等に引き続き働きかけていく必要がある。大学生の恒常的な確保が可能となれば、今後実施校の拡大（校数の増等）を検討していくことができる。

6 決算資料

一般会計（歳入）

（単位：円）

区分	科目	予算			現額			調定額 A	収入済額 B	不納欠損 額 C	収入未済額 A-B-C	備考
		当初予算額	補正予算額	繰越財源充当額	継続費及び 繰越事業費	繰越財源充当額	計					
歳入	教育使用料	685,000	0	0	685,000	0	431,210	431,210	0	0		
	行政財産使用料	88,000	0	0	88,000	0	108,050	108,050	0	0		
	教育費国庫補助金	546,000	0	0	546,000	0	240,634	240,634	0	0		
	物品売払収入	0	0	0	0	0	12,000	12,000	0	0		
	雑入	6,000	0	0	6,000	0	341,686	341,686	0	0		
	教育債	40,000,000	△4,000,000	0	36,000,000	0	30,000,000	30,000,000	0	0		
	合計	41,325,000	△4,000,000	0	37,325,000	0	31,133,580	31,133,580	0	0		

(単位：円)

一般会計(歳出)

区分	科目	予 算				現 額		決算額 B	決算額の内訳		翌年 度繰 越額 C	差引増減額 A-B-C	備 考
		当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰 越 額	予 備 費 支出及び 流用増減	計 A	本 庁		出納機関				
歳 出	社会 教育 総務 費	18,914,000	0	0	△783,600	18,130,400	15,807,742	15,260,828	546,914	0	2,322,658		
	青少 年社 会教 育施 設費	103,651,000	0	0	922,600	104,573,600	99,335,250	83,404,550	15,930,700	0	5,238,350		
	生涯 学習 セン タ ー 費	113,206,000	△3,220,000	0	△139,000	109,847,000	108,812,170	108,812,170	0	0	1,034,830		
	合計	235,771,000	△3,220,000	0	0	232,551,000	223,955,162	207,477,548	16,477,614	0	8,595,838		

7 事業別実施状況調べ

(単位：円)

事業名	当初予算額	補正予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	執行率	事業の計画と実績・成果・不用額・執行率
(目名) 社会教育総務費	5,278,000	(△301,560)	4,490,193		486,247	85.1%	(1) 教育審議会生涯学習分科会兼社会教育委員会協議の開催 会議の内容 ・ 社会教育関係団体への補助金について ・ 体験活動の推進について ・ 中学校トークプログラムの実施状況について ・ 「地域を核とした地域力強化プラン」について 令和2年1月28日 伯耆しあわせの郷 ・ 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業の事業計画 ・ 地域学校協働活動研修会
(主) インターネットと適切な接し方教育啓発推進事業	5,047,000	(△56,000)	4,657,282		333,718	92.3%	(2) 各種研修派遣 研修会名 第42回中国・四国地区社会教育研究大会高知大会 第61回全国社会教育研究大会青森大会 派遣先 ピュアリティまきび、岡山市民会館 神戸ポートピアホテル 派遣期間 R1.11.6～11.7 R1.10.23～10.24 ()はインターネットとの適切な接し方教育啓発推進事業他へ流用 ()は生涯学習センター運営費へ流用

事業名	当初予算額	補正予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	執行率	事業の計画と実績・成果・不用額・執行率
県市町村社会教育振興事業	1,452,000	(32,960)	1,296,363		188,597	89.3%	<p>地域の教育力を高め、県全体の社会教育の推進を図るため、市町村、公民館等の社会教育関係者の各種研修会や、合同研究協議会等の実施、社会教育主事の養成をした。</p> <p>(1) 県・市町村対象の生涯学習・社会教育担当者研修の実施 (2) 社会教育協議会主催の研修会に対する助成 (3) 社会教育主事養成</p> <p>社会教育主事に必要な専門的知識、技能を修得させ、資格を付与することとを目的とした社会教育主事講習Bをインターネットを活用して、鳥取県内で受講できるよう、県や市町村教育委員会事務局職員、公民館職員等教育関係者の社会教育主事資格取得を支援した。</p>
【社会教育主事講習B（鳥取会場）】							
日時	令和元年1月20日（月）～2月27日（木）まで						
場所	琴浦町生涯学習センター						
内容	○生涯学習概論 ○社会教育計画 ○社会教育特講 ○社会教育演習 ・宿泊研修2泊3日（船上山少年自然の家） ・現地研修（琴浦町教育委員会、琴浦町浦安地区公民館、琴浦町図書館） ・社会教育計画作成演習						
受講者	16名（全科目受講は9名。複数年での受講者7名。）						
（ ）は社会教育企画費から流用							

事業名	当初予算額	補正予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	執行率	事業の計画と実績・成果・不用額・執行率														
社会教育関係団体等による地域づくり支援事業	4,240,000	0	3,568,589		671,411	84.2%	社会教育関係団体等が持っている教育力を活用し、健やかな子どもが育つ地域づくりを促進するとともに、各団体の人材育成等を図るため、全県的な組織を有し、県の施策に合致した活動を展開している公共性のある社会教育関係団体を対象として、人材育成、指導者養成の経費について助成し、地域の教育力の向上と本県の生涯学習の推進を図った。 (県連合青年団、ガールスカウト鳥取県連盟、日本ボーイスカウト鳥取連盟、県子ども会育成連絡協議会、県連合婦人会)														
とっとり県民カレッジ事業	726,000	(△76,000)	529,729		120,271	73.0%	市町村と連携し地域課題の解決につなげられるテーマの講座を開催するとともに、県内大学と連携しながら、県民の多様なニーズに応える学習機会を提供した。 (1) とっとり県民カレッジ講座 (市町村連携)														
① 通常講座																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">開催テーマ</th> <th colspan="2">受講者数 (人)</th> </tr> <tr> <th>講演会</th> <th>実践発表・ワークショップ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>若者と地域をつながり</td> <td>94</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>ナナメの関係</td> <td>135</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>229</td> <td>137</td> </tr> </tbody> </table>								開催テーマ	受講者数 (人)		講演会	実践発表・ワークショップ	若者と地域をつながり	94	50	ナナメの関係	135	87	計	229	137
開催テーマ	受講者数 (人)																				
	講演会	実践発表・ワークショップ																			
若者と地域をつながり	94	50																			
ナナメの関係	135	87																			
計	229	137																			
② 特別講座 (県内大学と連携実施) 9 回実施																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>大学名</th> <th>受講者数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥取大学 (1 回)</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>公立鳥取環境大学 (2 回)</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>鳥取短期大学・鳥取看護大学 (5 回)</td> <td>359</td> </tr> <tr> <td>米子高専 (1 回)</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>517</td> </tr> </tbody> </table>								大学名	受講者数 (人)	鳥取大学 (1 回)	51	公立鳥取環境大学 (2 回)	54	鳥取短期大学・鳥取看護大学 (5 回)	359	米子高専 (1 回)	53	計	517		
大学名	受講者数 (人)																				
鳥取大学 (1 回)	51																				
公立鳥取環境大学 (2 回)	54																				
鳥取短期大学・鳥取看護大学 (5 回)	359																				
米子高専 (1 回)	53																				
計	517																				

事業名	当初予算額	補正予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	執行率	事業の計画と実績・成果・不用額・執行率
(主) 本の大好きな子どもを育てるプロジェクト	1,719,000	(△383,000)	1,010,602		325,398	58.8%	(2) 連携講座 122機関 2,098講座 ()は船上山少年自然の家運営費他へ流用 ()は船上山少年自然の家運営費他へ流用
児童養護施設等と連携した自然体験活動推進事業	452,000	0	254,984		197,016	56.4%	児童養護施設等を対象とした自然体験活動の推進を行った。 (1) 自然体験活動の実施 参加施設：10施設（施設内の各ホームも施設数としてカウント） 参加人数：合計160人（子ども92人、保護者11人、職員57人） 実施場所：船上山少年自然の家、大山青年の家、空山ポニー牧場 実施内容：県立施設等の指導員の指導・助言により、日帰りあるいは泊2日の日程で自然体験活動を行った。 (主な活動内容) 野外炊飯、クラフト、自然散策、大山登山、引馬乗馬体験 等
目 計	18,914,000	(△783,600)	15,807,742		2,322,658	83.6%	(2) 報告会の実施 令和2年3月3日開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症感染予防のため中止となった。

事業名	当初予算額	補正予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	執行率	事業の計画と実績・成果・不用額・執行率
(目名) 青少年社会 教育施設費 船上山少年自然の家運 営費	41,972,000	(747,000)	42,615,531		103,469	101.5%	船上山少年自然の家の運営及び施設の維持管理を行った。 ・指定管理者(R1~R5)TKSS・富士総合警備保障共同企業体 ・管理委託費 39,700,000円 (1)年間受入者数 日帰り9,172人 宿泊12,476人 計21,648人 (2)その他施設修繕等 (3)主催事業の実施状況 ちっちゃい体験隊等24事業 2,613人((1)の内数) ()は本の大好きな子どもを育てるプロジェクト他から流用
大山青年の 家運営費	60,587,000	(175,600)	56,238,450		4,524,150	92.8%	大山青年の家の運営及び施設の維持管理を行った。 ・指定管理者(R1~R5)(公財)鳥取県教育文化財団 ・管理委託費 37,895,000円 (1)年間受入者数 日帰り13,240人 宿泊17,862人 計31,102人 (2)その他施設修繕等 (3)主催事業等の実施状況 春の親子フェスティバルなど23事業 2,633人((1)の内数) ()は生涯学習センター運営費他から流用
鳥取県の美 しい星空環 境を活かし た体験活動 等推進事業	1,092,000		481,269		610,731	44.1%	鳥取県星空保全条例の趣旨を踏まえ、星空観察会の実施や移動 式プラネタリウムの実施等、星空環境を活用した教育の機会を 提供した。 (1)学校行事及び県立青少年社会教育施設における星空観察事 業(船上山少年自然の家、大山青年の家の各指定管理者に委 託) 主催事業：7事業 受入団体：11団体

事業名	当初予算額	補正予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	執行率	事業の計画と実績・成果・不用額・執行率
							(2) 移動型プラネタリウム実施事業 (船上山少年自然の家、大山青年の家各指定管理者に委託) 主催事業：1事業 受入団体：2団体 (執行率の理由) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、予定されていた活動の予約がキャンセルされたことに伴い、2月及び3月の事業が実施できなかった。また、1事業当たりの講師が見込より少なかったことによる。
目 計	103,651,000	(922,600)	99,335,250		5,238,350	95.8%	
(目名) 生涯学習センター費							
生涯学習センター運営費	113,206,000	(△139,000) △3,220,000	108,812,170		1,034,830	96.1%	生涯学習センターの管理運営を指定管理者により行った。 ・指定管理者 (H31～R5) (公財) 鳥取県教育文化財団 ・管理委託費 91,938,190円 新型コロナウイルス感染症の感染防止のためにイベント主催者が施設利用をキャンセルした場合、キャンセル料を県が負担することとなったため、管理委託料を259,190円増額した。 ・ワイヤレスアンプを購入 () は大山青年の家運営費へ流用
目 計	113,206,000	(△139,000) △3,220,000	108,812,170		1,034,830	96.1%	

「配当替分」 (旧名) 教育連絡調 整費 (主) 中学校ト一 クプログラム 鳥取県地域 コーディネ ーター養成 講座	(1,431,000)	(1,073,601)	(357,399)	75.0%	鳥取県地域コーディネーター養成講座を実施し、60名を鳥取県地域コーディネーターとして認定した。全4回の講座とも全国でも著名な講師陣を迎え、内容の濃い充実した研修会となった。受講後のアンケートにおいても大変高評価であり、今後認定した60名それぞれの地域における活躍が期待される。	《全4回》会場：伯耆しあわせの郷（倉吉市）		
						研修会	期日	講師
	(740,000)	(568,960)	(171,040)	76.9%		第1回【基礎編Ⅰ】 「社会教育の理 解」 馬場 祐次朗氏 文部科学省 西 祐樹氏	8/27	75名
						第2回【基礎編Ⅱ】 「学校と地域の連 携・協働」 岡山大学大学院教授 熊谷 慎之輔氏	9/19	68名
						第3回【実践編Ⅰ】 「コーディネ ーターの 実際①」 香川大学教授 清國 祐二氏	12/13	66名
						第4回【実践編Ⅱ】 「コーディネ ーターの 実際②」 文部科学省 志々田 まなみ氏 まちと学校のみらい代表理事 竹原 和泉氏	1/15	60名
目 計	0	0	0					
合 計	235,771,000	△3,220,000	223,955,162	8,595,838	95.0%			

8 予備費の充用調べ
該当無し

9 繰越関係調べ

(1) 継続費通次繰越調べ
該当無し

(2) 繰越明許費調べ
該当なし

(3) 事故繰越調べ
該当無し

10 収入証紙取扱額調べ
有 無

11 現金の取扱状況
ア 現金取扱状況
該当無し

イ つり銭の状況
該当無し

12 財産に関する調べ
(1)公有財産
ア 土地

(令和2年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				本年度末		備考
			面積(m ²)	価額(円)	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m ²)	
行政財産		/	99,830.41	45,739,686	H			H	99,830.41	45,739,686	
計	(内訳)	/	99,830.41	45,739,686		0			99,830.41	45,739,686	
普通財産		/			H			H	0.00	0	
計	(内訳)	/							0.00	0	
合計		/	99,830.41	45,739,686		0			99,830.41	45,739,686	

イ 建物

(令和2年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				本年度末		備考
			面積(m ²)	価額(円)	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	登記年月日	面積(m ²)	
行政財産		/	12,584.92	1,945,078,261	H			H	12,584.92	1,945,078,261	
計	(内訳)	/	12,584.92	1,945,078,261		0			12,584.92	1,945,078,261	
普通財産		/			H			H	0.00	0	
計	(内訳)	/							0.00	0	
合計		/	12,584.92	1,945,078,261		0			12,584.92	1,945,078,261	

ウ 山林
該当なし

エ 不動産売却等
該当なし

オ 財産の交換
該当なし

カ 動産(船舶、浮標、浮橋、浮ドック、航空機)
該当なし

キ 物権
該当なし

ク 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案件等)

(ア) 異動状況
該当なし

(イ) 出願及び登録の状況
該当なし

(ウ) 活用の状況
該当なし

ケ 有価証券
該当なし

コ 出資による権利
該当なし

(2) 金券類の保有状況
ア 金券の保有状況
有 無

イ タクシーチケットの受払状況

(令和2年3月31日現在)

前年度未使用枚数	本年度中		本年度末	備考
	購入枚数	使用枚数及び金額		
108枚	0枚	14枚 16,750円	94枚	

(3) 基金
該当なし

(4) 債権

(令和2年3月31日現在)

債権の名称	前年度末		本年度中		本年度末		備考
	金額	件数	増 金額	減 金額	金額	件数	
行政財産使 用料	47,040	5	4,350	18,050	0	33,340	6
						0	0
						0	0
合 計	47,040	5	4,350	18,050	0	33,340	6

13 財産の貸付及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物
了 土地

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏	所名	
行政財産	電力供給配電線支持物設置	西伯郡大山町赤松明間原312-1 (大山青年の家)	電柱1本 ケーブル1条	H26.1.19		H31.4.22 ~ R6.3.31	870	870	広島市中区大手町二丁目11-10 (株)エヌケー7・コミュニケーションズ 借技術本部長	大山青年の家	
計								870			
普通財産											
計											
合計								870			

イ 建物
該当なし

(2) 物品(1品の取得価格が100万円以上のもの及び寄附受納時の評価額が100万円以上のもの)

品名	数量	規格・銘柄	貸付期間	貸付料(円)		貸付先住所氏名	使用場所	貸付目的	備考
				単価	本年度の貸付料				
絨帳	1	フック刺しゅう巾14.8m×高さ5.5m	H31.4.1 ～ R6.3.31	無料	無料	鳥取市扇町21番地 (公財)鳥取県教育文化財団理事 長	生涯学習センター	施設の管理運営に供 するため	
グランドピアノ	1	ヤマハCF	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	"	"	"	
デジタル印刷機	1	リンググラフ RZ670	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	"	"	"	
キセンピンスポットライト	2	松村電機製作所 SUPERSOL-1003SR/e	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	"	"	"	
ホール用デジタルミキサ-	1	ヤマハCL-3、ヤマハRio 3224-D	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	"	"	"	
ホール用音響システム	1	BOSE ESP-002	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	"	"	"	
ホール吊幕(諸幕)	1	(株)ナカヤマ 貴八綾別 珍・防炎品	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	"	"	"	
ポーターライト	1	150W/ハロゲン×63灯 上下・中区分=12.6m	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	"	"	"	
除雪機	1	フジ/SD1123DK2	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	"	大山青年の家	"	
絵画	1	油絵60号額縁付き「漂流」	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	"	"	"	
公用車	1	ゼレナ AT 4WD	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	"	"	"	
エルネット受信システム	1	TA-C5H575S、TD- MD100G、D-5100-06	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	米子市米原8-11-49 TKSS 富士総合警備保障共同企業体 (株)TKSS代表取締役	船上山少年自 然の家	"	
公用車	1	バジェロ 三菱LA- V73WLRUVQ	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	"	"	"	
絵画	1	日本画(船上山北壁)F30号	H31.4.1 ～ R6.3.31	"	"	"	"	"	
合計									

14 借受不動産明細調べ

(平成31年4月30日現在)

区分	種別	借受(使用)目的	所在地	数量又は面積	契約の状況			借受先 住所氏名	備考
					契約書の有無	借受期間	借料(円) 単価 月額・年額		
土地	山林	施設運営のため	東伯郡琴浦町山川1807-2	26,647	有	S51.5.18~存続中	無償 月額・年額	東伯郡琴浦町山川1807-2 以西財産区管理者 琴浦町長	本誤で 契約締結
土地	畑	施設運営のため	東伯郡琴浦町山川1807-11	299	有	S51.5.18~存続中	無償 月額・年額	東伯郡琴浦町山川1807-2 以西財産区管理者 琴浦町長	"
土地	原野	施設運営のため	東伯郡琴浦町山川1807-4	214	有	H2.4.27~存続中	無償 月額・年額	東伯郡琴浦町山川1807-2 以西財産区管理者 琴浦町長	"
土地	畑	施設運営のため	東伯郡琴浦町山川1807-12~14	751	有	H2.4.27~存続中	無償 月額・年額	東伯郡琴浦町赤崎1142-3 琴浦町 琴浦町長	"
合計									0

15 職員駐車場の管理状況調べ

(1) 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円) 1000
行政財産	鳥取県西伯郡大山町赤松間原312番地1	12.5	
普通財産			

(2) 減免の考え方
該当なし

(3) 使用料の見直し
該当なし

16 寄附物件の受納状況調べ
該当なし

17 備品の処分状況調べ

品名 (規格・銘柄)	(保管換年月日) 取得年月日	不 用 決 定 年 月 日	処 分				備考
			売 払 棄 却 の 別	売 払 方 法 ・ 棄 却 理 由	処 分 年 月 日	売 払 額 ・ 処 分 費 用	
業務用冷凍庫 サンヨーSRF-EV 1283S型	平成11年7月7日	令和1年9月10日	棄却	引取り	令和元年9月10日	0 円	
AED他 フリップスハートス タートHS1セット他	平成21年8月11日他	令和2年2月25日	棄却	引取り	令和2年2月25日他	0 円	
ピアノ ヤマハ2H	昭和53年11月25日	令和2年2月25日	棄却	インターネット売却	令和2年3月16日	12,000 円	

18 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

有 無

(2) 物品の照合

有 無

19 貸付金等状況調べ

該当なし

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する要望等

特になし

(2) 監査委員事務局に対する意見・要望等

特になし